



Port Pacing の構成

この章では、ポート ペーサーを構成する方法について説明します。

- [Port Pacing についての情報, on page 1](#)
- [注意事項と制約事項, on page 1](#)
- [Port Pacer の構成, on page 2](#)

Port Pacing についての情報

ファイバチャネル Port Pacer は、Cisco MDS 9513 および MDS 9710 スイッチでのみサポートされています。Port Pacer は、ポートが段階的に起動されるように、同時に起動するモード F ポートの数を調整するように設計されています。

F ポートの起動中に、Port Pacer は F ポート サーバーにポートが起動していることを通知します。Port Pacer は、F ポート サーバーがそのポートで FLOGI と FDISC を受信するのを待ちます。Port Pacer は、同時ポート数のポートを同時に起動しようとしています。ただし、F ポート サーバーがそのポートの FLOGI および FDISC を受信したことを Port Pacer に通知した後、Port Pacer はポートの起動を完了し、ポート ステータスを up として更新します。その後、次のポートの起動を試みます。

デフォルトでは、F ポート ペーシングは無効になっています。ポート ペーシングを有効にすると、ポートで受信された FLOGI または FDISC の数が追跡されます。すべての FLOGI または FDISC が正常にログインした場合（これには数秒かかります）、別の一連の同時ポートが起動します。常に、FLOGI は、構成された同時ポートに対してのみ処理されます。この機能は、ホストで FLOGI の再試行がゼロの場合に有効です。

注意事項と制約事項

以下は、ポート ペーサーを有効にするための推奨されるガイドラインと要件です。

- ポート ペーシング構成は、管理ポート モード F でのみサポートされます。
- Concurrent-ports port-number は、トポロジに応じて設定する必要があり、この値を同時に起動できる F ポートの数に設定する必要があります。

Port Pacer の構成

ポート ペーシングの有効化



Note ポート ペーシング構成は、管理ポート モード F でのみサポートされます。

ポート ペーシング コマンドは、すべての管理ポート モード F ポートに適用できるシステム全体のコマンドです。

ポート ペーサーを有効にするには、次の手順を実行します。

Procedure

ステップ 1 switch# **configure terminal**

コンフィギュレーションモードに入ります。

ステップ 2 switch# (config)# **system port pacer mode F interface-login-threshold 10 concurrent-ports 1**

同時実行数が 1 でしきい値が 10 に設定されている F ポートのペーサー モードを有効にします。

interface-login-threshold は、ポートで予想される FLOGI または FDISC の数を指定します。

concurrent-ports は、同時に起動できる管理ポート モード F ポートの数を指定します。

Port Pacing 構成の表示

ポート ペーシング構成を無効にするには、次の手順に従います。

Procedure

ステップ 1 switch# **configure terminal**

コンフィギュレーションモードに入ります。

ステップ 2 switch# (config)# **no system port pacer mode F interface-login-threshold 10 concurrent-ports 1**

F ポートのペーサー モードを無効にします。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。